

軍備部方式の破綻と海軍軍拡計画の再編（中） 1883-86年

目次

【論文】

軍備部方式の破綻と海軍軍拡計画の再編－1883－86年－（中） 池田憲隆 1

弘前市の道路計画が都市空間構造に与える可能性

0. 序論 大橋忠宏・鷲見雄哉 11

1. 軍備部方式の破綻

『製造業の研究開発支出：会社四季報アンケートデータと
有価証券報告データとの比較分析』ノート

2.3) 軍備部方式の破綻 嶋 恵一・小谷田文彦 27

2.4) 軍備部方式の再編（以上、前号）

2. 艦船整備の展開過程

1) 艦船整備計画の立案

2) 艦隊案（外洋発注）の立案

3) 艦隊の完成過程

4) 小結（以上、本号）

3. 海軍公債の発行と海軍軍拡計画の立案

4. 結論

2. 艦船整備の展開過程

この時期における艦船整備の展開過程についてはすでに分析している³⁾が、海外発注に拠って83年5月以前しか検討しておらず、国内建造に拠してもやや中途半端に終わっていた。ここではその補足をあおむらと同時に、海軍が強固な繰上げ要求で予算を獲得したにもかかわらず、83年度から85年度にかけて実際には支出できなかった原因についても検討しておく。

83年軍拡当別プランでは表5にみられるような艦船整備計画の大幅な増額が海軍側から大政大臣に提示され、承認されていた。その後、さらに海軍は予算増額を83・84年度に前倒しする繰上げプランを上請し、ついに83年5月28日に認可をえた。この時点で、陸軍は前号記載の大幅増額とこの海軍繰上げプランに基いて軍拡計画全体は寛容・拡大した（83年軍拡実行プラン）。海軍軍拡費自体としてはむしろ抑制されながらもはなっていたが、軍艦増行費が半額削減しか野上されておらず、計画立案で過度増額要求がでてくる可能性の高いプラン⁴⁾であった。ともあれ、海軍は当面このような枠組